

令和7年度学校保健統計調査の結果

(学校保健統計調査の結果確報)

—鹿児島県分集計—

令和8年2月

鹿児島県総合政策部統計課

利用上の注意

1 調査の期日等

令和7年4月1日から令和7年6月30日までの間に実施された学校保健安全法による健康診断の結果について調査したものである。

2 調査の範囲・対象

・ 調査の範囲は、幼稚園、幼保連携型認定こども園、小学校、中学校、義務教育学校、高等学校及び中等教育学校のうち、文部科学大臣があらかじめ指定する学校(以下「調査実施校」という。)

幼稚園には幼保連携型認定こども園を、小学校には義務教育学校(第1～6学年)を、中学校には義務教育学校(第7～9学年)及び中等教育学校の前期課程を、高等学校には中等教育学校の後期課程をそれぞれ含む(以下同じ)。

・ 調査の対象は、調査実施校に在籍する、満5歳から17歳(令和7年4月1日現在)までの幼児、児童及び生徒である。

発育状態調査は、調査実施校に在籍する幼児、児童及び生徒のうちから年齢別男女別に抽出された者を対象とし、健康状態調査は、調査実施校の当該年齢の全員を対象としている。

・ 本県における調査実施校数、調査対象者数及び抽出率は次のとおりである。

区分	調査実施校数 (校)	発育状態調査対象者数 人	健康状態調査対象者数 人
幼稚園	36	1,003	1,124
小学校	61	5,475	29,588
中学校	40	4,271	18,038
高等学校	29	2,498	22,456
計	166	13,247	71,206
		鹿児島県内の幼児・児童及び生徒総数の7.5%	鹿児島県内の幼児・児童及び生徒総数の40.3%

参考：令和7年度幼児、児童及び生徒の数(令和7年度学校基本統計(学校基本調査結果の概要)より)

幼稚園・幼保連携型認定こども園(5歳児):7,647人 小学校全児童数:81,578人 中学校全生徒数:44,810人

義務教育学校全児童生徒数:1,407人 高等学校全生徒数:41,440人

：高等学校の生徒数には「通信制課程」を含んでいない。

3 数値の取り扱い

・ 鹿児島県分を取りまとめた数値については、調査対象者数が少ない(全数調査ではない)ため、誤差が大きくなる可能性があるため、利用に当たっては注意が必要である。

・ 計欄の数値と内訳の合計の数値とは、四捨五入しているため、一致しない場合がある。

・ 統計表の中の記号は下記のように使う。

「—」 ----- 計数がない場合

「0.00」 ----- 計数が単位未満の場合

「…」 ----- 調査対象とならなかった場合

「X」 ----- 標本サイズが小さい、又は標準誤差が大きいため統計数値を公表しない場合

4 その他

・ 令和4年度調査から速報は確報に一本化している。

・ 令和2年度から5年度の数値については、新型コロナウイルス感染症の影響により、調査時期の異なる数値を含んだ結果であるため、他の年度の数値と比較することはできない。

・ 全国分集計結果については、文部科学省のホームページに掲載されている。

(https://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/main_b8.htm)

調査結果の概要

(鹿児島県)

I 発育状態調査

1 身長・体重の本県平均値

令和7年度の幼稚園、小学校、中学校及び高等学校における幼児、児童及び生徒の身長、体重の本県平均値を年齢別にみると表1のとおりである。

- (1) 身長 男子の身長は、8歳、10歳、11歳、16歳で前年度を上回っている。
女子の身長は、6歳、9歳、12歳、16歳で前年度を上回っている。
なお、9歳～11歳で女子は男子を上回っている。
- (2) 体重 男子の体重は、8歳～11歳、15歳で前年度を上回っている。
女子の体重は、6歳、8歳～10歳、12歳、15歳、16歳で前年度を上回っている。
なお、12歳で女子は男子を上回っている。

表1 年齢別 身長・体重の平均値

区 分			身 長(cm)			体 重(kg)		
			令和6年度	令和7年度	差	令和6年度	令和7年度	差
男 子	幼稚園	5歳	110.3	110.1	△ 0.2	19.1	19.0	△ 0.1
		小学校	6歳	116.0	115.7	△ 0.3	21.1	21.1
	7歳		122.7	121.8	△ 0.9	24.5	24.0	△ 0.5
	8歳		128.1	<u>128.3</u>	0.2	27.0	<u>27.4</u>	0.4
	9歳		133.4	133.2	△ 0.2	31.0	<u>31.2</u>	0.2
	10歳		138.5	<u>139.2</u>	0.7	34.1	<u>35.3</u>	1.2
	11歳		144.9	<u>145.1</u>	0.2	38.7	<u>39.2</u>	0.5
	中学校	12歳	153.4	153.0	△ 0.4	44.7	44.0	△ 0.7
		13歳	160.6	160.4	△ 0.2	50.5	49.8	△ 0.7
		14歳	165.5	164.9	△ 0.6	54.5	54.4	△ 0.1
	高等学校	15歳	168.2	168.2	0.0	58.5	<u>58.7</u>	0.2
		16歳	169.2	<u>169.4</u>	0.2	60.3	60.3	0.0
		17歳	170.3	170.0	△ 0.3	62.4	62.4	0.0

区 分			身 長(cm)			体 重(kg)		
			令和6年度	令和7年度	差	令和6年度	令和7年度	差
女 子	幼稚園	5歳	109.2	108.5	△ 0.7	18.7	18.3	△ 0.4
		小学校	6歳	114.9	<u>115.1</u>	0.2	20.6	<u>20.8</u>
	7歳		121.6	121.1	△ 0.5	23.5	23.3	△ 0.2
	8歳		127.4	127.4	0.0	27.0	<u>27.1</u>	0.1
	9歳		133.3	<u>133.7</u>	0.4	30.2	<u>30.6</u>	0.4
	10歳		140.7	140.4	△ 0.3	34.8	<u>35.2</u>	0.4
	11歳		147.4	146.8	△ 0.6	39.8	39.1	△ 0.7
	中学校	12歳	151.6	<u>151.8</u>	0.2	44.2	<u>44.6</u>	0.4
		13歳	154.6	154.5	△ 0.1	47.6	47.0	△ 0.6
		14歳	156.0	155.7	△ 0.3	50.1	49.7	△ 0.4
	高等学校	15歳	157.2	156.6	△ 0.6	50.9	<u>51.0</u>	0.1
		16歳	157.0	<u>157.5</u>	0.5	51.9	<u>52.3</u>	0.4
		17歳	157.4	157.4	0.0	52.9	52.6	△ 0.3

(注)太字下線付部分は、前年度(令和6年度)数値を上回ったものである。

2 本県平均値と全国平均値の比較

調査項目52項目(身長・体重2項目×13年齢区分×男・女)中、本県平均値が全国平均値を上回っている項目は次の8項目である。

男子		女子	
身長	体重	身長	体重
なし	10歳(+0.2kg) 17歳(+0.2kg)	なし	8歳(+0.3kg) 9歳(+0.2kg) 10歳(+0.3kg) 12歳(+0.2kg) 16歳(+0.4kg) 17歳(+0.1kg)

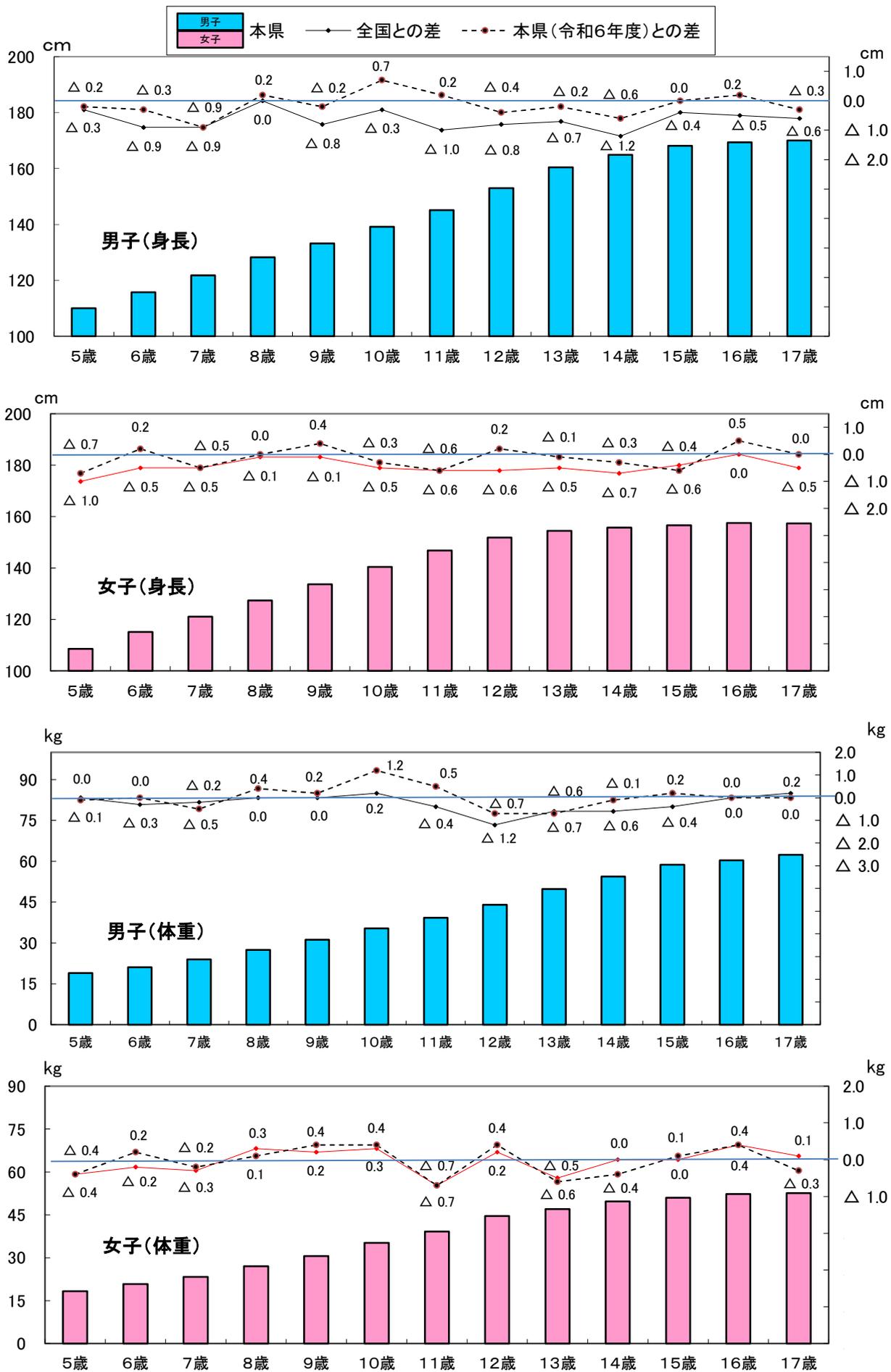
表2 発育状態平均値の比較(全国・鹿児島県)

区 分			身 長(cm)			体 重(kg)		
			本県	全国	差	本県	全国	差
男 子	幼稚園	5歳	110.1	110.4	△ 0.3	19.0	19.0	0.0
		小学校	6歳	115.7	116.6	△ 0.9	21.1	21.4
	7歳		121.8	122.7	△ 0.9	24.0	24.2	△ 0.2
	8歳		128.3	128.3	0.0	27.4	27.4	0.0
	9歳		133.2	134.0	△ 0.8	31.2	31.2	0.0
	10歳		139.2	139.5	△ 0.3	35.3	35.1	0.2
	11歳		145.1	146.1	△ 1.0	39.2	39.6	△ 0.4
	中学校	12歳	153.0	153.8	△ 0.8	44.0	45.2	△ 1.2
		13歳	160.4	161.1	△ 0.7	49.8	50.4	△ 0.6
		14歳	164.9	166.1	△ 1.2	54.4	55.0	△ 0.6
	高等学校	15歳	168.2	168.6	△ 0.4	58.7	59.1	△ 0.4
		16歳	169.4	169.9	△ 0.5	60.3	60.3	0.0
		17歳	170.0	170.6	△ 0.6	62.4	62.2	0.2
	区 分			身 長(cm)			体 重(kg)	
本県				全国	差	本県	全国	差
女 子	幼稚園	5歳	108.5	109.5	△ 1.0	18.3	18.7	△ 0.4
		小学校	6歳	115.1	115.6	△ 0.5	20.8	21.0
	7歳		121.1	121.6	△ 0.5	23.3	23.6	△ 0.3
	8歳		127.4	127.5	△ 0.1	27.1	26.8	0.3
	9歳		133.7	133.8	△ 0.1	30.6	30.4	0.2
	10歳		140.4	140.9	△ 0.5	35.2	34.9	0.3
	11歳		146.8	147.4	△ 0.6	39.1	39.8	△ 0.7
	中学校	12歳	151.8	152.4	△ 0.6	44.6	44.4	0.2
		13歳	154.5	155.0	△ 0.5	47.0	47.5	△ 0.5
		14歳	155.7	156.4	△ 0.7	49.7	49.7	0.0
	高等学校	15歳	156.6	157.0	△ 0.4	51.0	51.0	0.0
		16歳	157.5	157.5	0.0	52.3	51.9	0.4
		17歳	157.4	157.9	△ 0.5	52.6	52.5	0.1

(注)年齢は、令和7年4月1日現在の満年齢である。

また、太字下線付部分は、全国平均値を上回ったものである。

図1 全国と鹿児島県との差



3 本県の身長・体重の推移(世代間の比較)

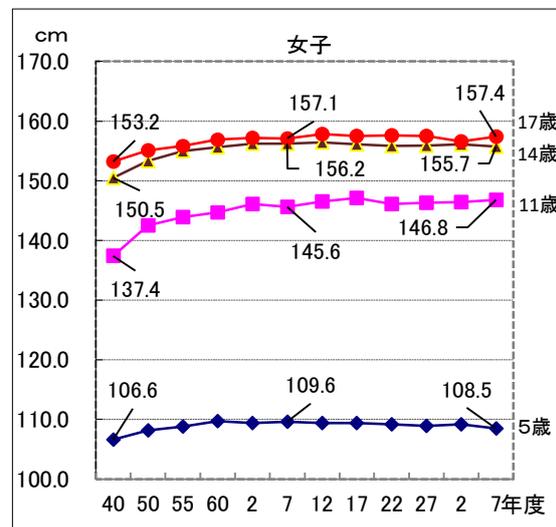
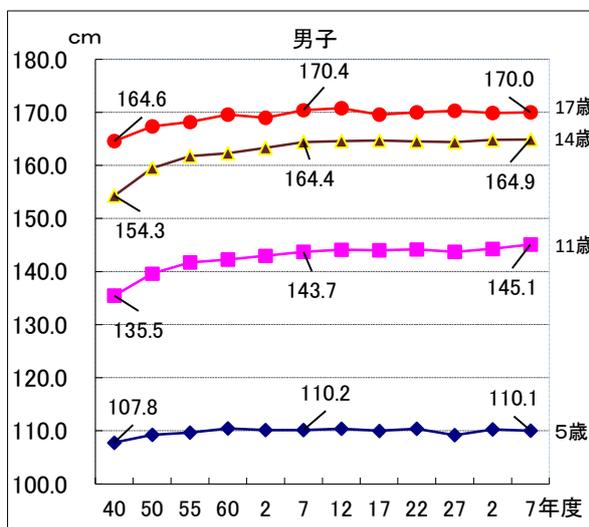
(1) 身長の推移

令和7年度の身長を30年前の平成7年度(親の世代)と比べると、最も差のある年齢は男子では12歳で2.7cm、女子では10歳で1.4cmそれぞれ高くなっている。

表3 年齢別 身長の平均値

区 分			身 長 (cm)				
			昭和40年度 祖父母世代(60年前) (A)	平成7年度 親の世代(30年前) (B)	令和7年度 子世代 (C)	(C)-(B)	(B)-(A)
男 子	幼稚園	5歳	107.8	110.2	110.1	△ 0.1	2.4
		小学校	6歳	111.0	115.7	115.7	0.0
	7歳		116.5	121.8	121.8	0.0	5.3
	8歳		121.4	127.1	128.3	1.2	5.7
	9歳		126.1	132.7	133.2	0.5	6.6
	10歳		130.7	138.0	139.2	1.2	7.3
	11歳		135.5	143.7	145.1	1.4	8.2
	中学校	12歳	141.2	150.3	153.0	2.7	9.1
		13歳	147.9	157.8	160.4	2.6	9.9
		14歳	154.3	164.4	164.9	0.5	10.1
	高等学校	15歳	160.2	167.5	168.2	0.7	7.3
		16歳	163.4	169.5	169.4	△ 0.1	6.1
		17歳	164.6	170.4	170.0	△ 0.4	5.8
	女 子	幼稚園	5歳	106.6	109.6	108.5	△ 1.1
小学校			6歳	110.1	115.1	115.1	0.0
		7歳	115.4	121.2	121.1	△ 0.1	5.8
		8歳	120.5	127.0	127.4	0.4	6.5
		9歳	125.9	132.9	133.7	0.8	7.0
		10歳	131.1	139.0	140.4	1.4	7.9
		11歳	137.4	145.6	146.8	1.2	8.2
中学校		12歳	143.6	150.9	151.8	0.9	7.3
		13歳	147.9	155.0	154.5	△ 0.5	7.1
		14歳	150.5	156.2	155.7	△ 0.5	5.7
高等学校		15歳	152.8	156.9	156.6	△ 0.3	4.1
		16歳	152.9	157.1	157.5	0.4	4.2
		17歳	153.2	157.1	157.4	0.3	3.9

図2 年齢別・身長の平均値の推移



平成19年度生まれ(令和7年4月1日現在17歳)と30年前の昭和52年度生まれ(親の世代)の発育量を比べると、年間発育量が最大となる時期は、男子については平成19年度生まれが12歳、昭和52年度生まれも12歳となっている。

女子については、年間発育量が最大になる時期は、平成19年度生まれが9歳、昭和52年度は10歳となっている。また、平成19年度生まれの最大の発育量を示す年齢は、男子に比べ3歳早くなっている。

表4 平成19年度と昭和52年度の者の年間発育量の比較(身長)(cm)

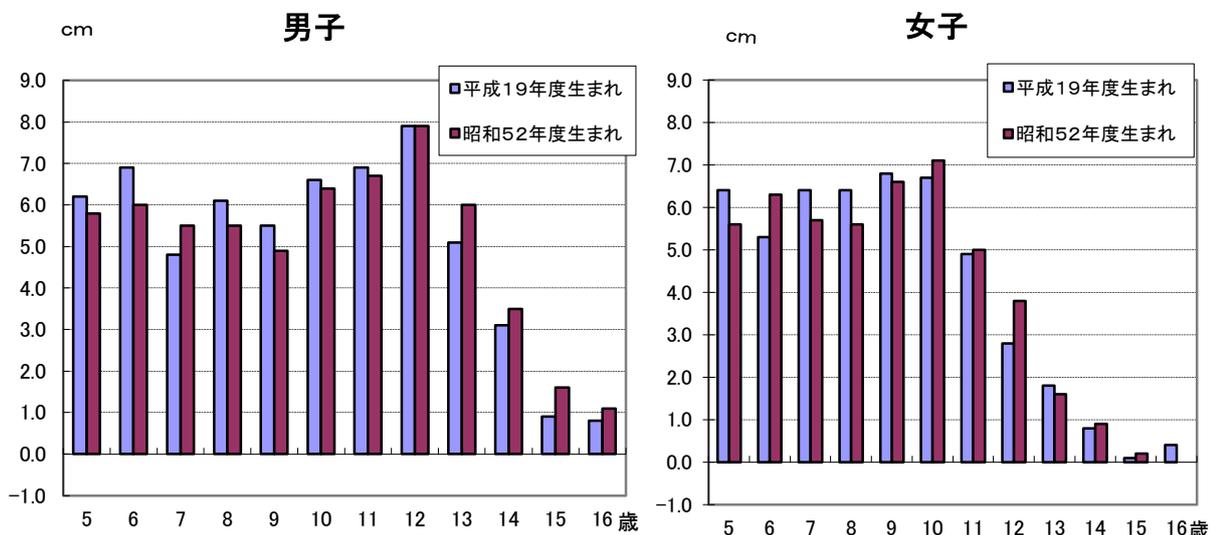
区 分	男 子		女 子		
	昭和52年度生まれ (親の世代の17歳)	平成19年度生まれ (令和7年度17歳)	昭和52年度生まれ (親の世代の17歳)	平成19年度生まれ (令和7年度17歳)	
総 発 育 量	60.9	60.8	48.4	48.8	
幼稚園 5歳時 (5歳～6歳)	5.8	6.2	5.6	6.4	
小 学 校	6歳時	6.0	6.9	6.3	5.3
	7 "	5.5	4.8	5.7	6.4
	8 "	5.5	6.1	5.6	6.4
	9 "	4.9	5.5	6.6	6.8
	10 "	6.4	6.6	7.1	6.7
	11 "	6.7	6.9	5.0	4.9
中 学 校	12 "	7.9	7.9	3.8	2.8
	13 "	6.0	5.1	1.6	1.8
	14 "	3.5	3.1	0.9	0.8
高 校	15 "	1.6	0.9	0.2	0.1
	16 "	1.1	0.8	0.0	0.4

(注) 太字下線付部分は、年間発育量が最大となった時期の数値である。

(注) 年間発育量とは、例えば、平成19年度生まれの者の「5歳時」の年間発育量は、平成26年度調査6歳の者の身長から平成25年度調査 5歳の者の身長を引いたものである。

0歳	平成19年度生まれ
5歳	平成24年度年齢 (平成25年度調査)
6歳	平成25年度年齢 (平成26年度調査)

図3 平成19年度生まれと昭和52年度生まれの者の年間発育量の比較(身長)



※調査数が全生徒数の7.5%であることや調査対象者が毎年変わることから発育量がマイナスとなることがあります。

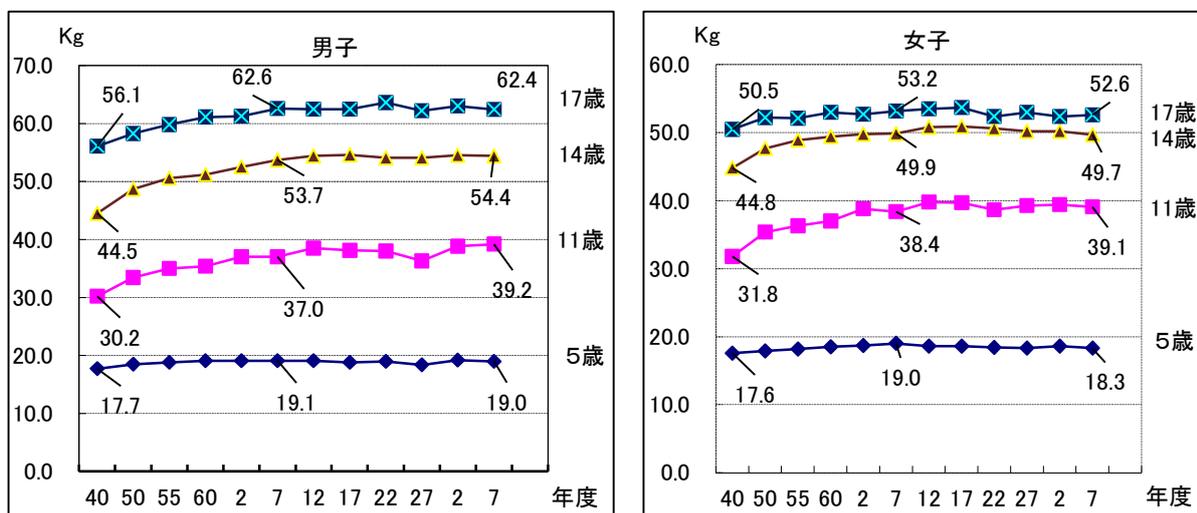
(2) 体重の推移

令和7年度の体重を30年前の平成7年度(親の世代)と比べると、最も差のある年齢は、男子では13歳で2.3kg、女子は10歳で1.5kgそれぞれ重くなっている。

表5 年齢別 体重の平均値

区 分			体 重(kg)				
			昭和40年度 祖父母世代(60年前) (A)	平成7年度 親の世代(30年前) (B)	令和7年度 子世代 (C)	(C)-(B)	(B)-(A)
男 子	幼稚園	5歳	17.7	19.1	19.0	△ 0.1	1.4
		6歳	18.9	21.2	21.1	△ 0.1	2.3
	小学校	7歳	20.9	23.9	24.0	0.1	3.0
		8歳	23.0	26.8	27.4	0.6	3.8
		9歳	25.2	30.1	31.2	1.1	4.9
		10歳	27.7	33.5	35.3	1.8	5.8
		11歳	30.2	37.0	39.2	2.2	6.8
	中学校	12歳	34.1	41.9	44.0	2.1	7.8
		13歳	39.0	47.5	49.8	2.3	8.5
		14歳	44.5	53.7	54.4	0.7	9.2
	高等学校	15歳	50.7	58.2	58.7	0.5	7.5
		16歳	54.0	61.2	60.3	△ 0.9	7.2
		17歳	56.1	62.6	62.4	△ 0.2	6.5
女 子	幼稚園	5歳	17.6	19.0	18.3	△ 0.7	1.4
		6歳	18.4	21.0	20.8	△ 0.2	2.6
	小学校	7歳	20.3	23.4	23.3	△ 0.1	3.1
		8歳	22.5	26.5	27.1	0.6	4.0
		9歳	24.9	29.8	30.6	0.8	4.9
		10歳	27.8	33.7	35.2	1.5	5.9
		11歳	31.8	38.4	39.1	0.7	6.6
	中学校	12歳	36.8	43.5	44.6	1.1	6.7
		13歳	41.5	48.0	47.0	△ 1.0	6.5
		14歳	44.8	49.9	49.7	△ 0.2	5.1
	高等学校	15歳	47.8	51.9	51.0	△ 0.9	4.1
		16歳	49.8	53.4	52.3	△ 1.1	3.6
		17歳	50.5	53.2	52.6	△ 0.6	2.7

図4 年齢別・体重の平均値の推移



平成19年度生まれ(令和7年4月1日現在17歳)と30年前の昭和52年度生まれ(親の世代)の発育量を比べると、年間発育量が最大となる時期は、男子については平成19年度生まれが12歳、昭和52年度生まれも12歳となっている。

女子については、年間発育量が最大になる時期は、平成19年度生まれが10歳、昭和52年度生まれも10歳となっている。また、平成19年度生まれの最大の発育量を示す年齢は、男子に比べ2歳早くなっている。

表6 平成19年度生まれと昭和52年度生まれの者の年間発育量の比較(体重)(kg)

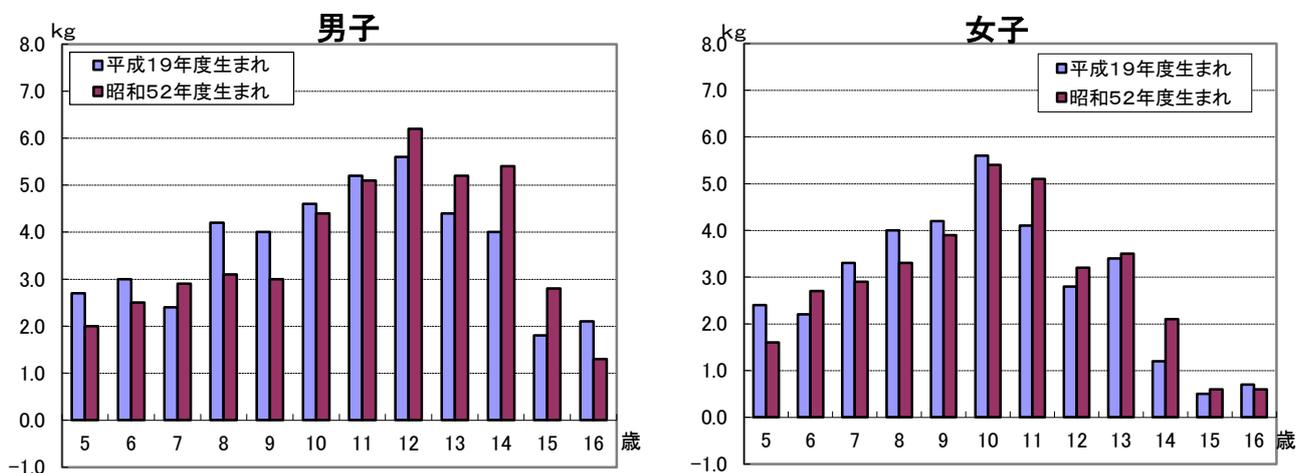
区 分	男 子		女 子		
	昭和52年度生まれ (親の世代の17歳)	平成19年度生まれ (令和7年度17歳)	昭和52年度生まれ (親の世代の17歳)	平成19年度生まれ (令和7年度17歳)	
総 発 育 量	43.9	44.0	34.9	34.4	
幼稚園 5歳時 (5歳～6歳)	2.0	2.7	1.6	2.4	
小 学 校	6歳時	2.5	3.0	2.7	2.2
	7 〃	2.9	2.4	2.9	3.3
	8 〃	3.1	4.2	3.3	4.0
	9 〃	3.0	4.0	3.9	4.2
	10 〃	4.4	4.6	<u>5.4</u>	<u>5.6</u>
	11 〃	5.1	5.2	5.1	4.1
中 学 校	12 〃	<u>6.2</u>	<u>5.6</u>	3.2	2.8
	13 〃	5.2	4.4	3.5	3.4
	14 〃	5.4	4.0	2.1	1.2
高 等 学 校	15 〃	2.8	1.8	0.6	0.5
	16 〃	1.3	2.1	0.6	0.7

(注) 太字下線付部分は、年間発育量が最大となった時期の数値である。

(注) 年間発育量とは、例えば、平成19年度生まれの者の「5歳時」の年間発育量は、平成26年度調査 6歳の者の体重から平成25年度調査 5歳の者の体重を引いたものである。

0歳	平成19年度生まれ
5歳	平成24年度年齢 (平成25年度調査)
6歳	平成25年度年齢 (平成26年度調査)

図5 平成19年度生まれと昭和52年度生まれの者の年間発育量の比較(体重)



※調査数が全生徒数の7.5%であることや調査対象者が毎年変わることから発育量がマイナスとなることがあります。

II 健康状態調査等

1 疾病・異常の被患率等別状況

疾病・異常を被患率等別にみると、小学校では「むし歯(う歯)」の割合が最も高く、次いで「裸眼視力1.0未満」の順となっている。また、中学校では「裸眼視力1.0未満」の割合が最も高く、次いで「むし歯(う歯)」の順、高等学校では「むし歯(う歯)」の割合が最も高く、次いで「鼻・副鼻腔疾患」の順となっている。

表1 疾病・異常の被患率

(単位:%)

区分(%)	幼稚園	小学校	中学校	高等学校
70以上~80未満				
60~70			裸眼視力1.0未満 61.1	
50~60				
40~50		むし歯(う歯) 41.5		むし歯(う歯) 48.7
30~40		裸眼視力1.0未満 33.6	むし歯(う歯) 38.7	
20~30	むし歯(う歯) 22.6			
10~20		鼻・副鼻腔疾患 15.5 歯・口腔のその他の疾病・異常 10.9	鼻・副鼻腔疾患 12.7	
8~10			歯・口腔のその他の疾病・異常 8.4	鼻・副鼻腔疾患 9.7
6~8		耳疾患 7.4	歯肉の状態 6.6 歯垢の状態 6.4 歯列・咬合 6.0	蛋白検出の者 6.0
4~6	歯列・咬合 5.7	眼の疾病・異常 4.6	耳疾患 5.0 眼の疾病・異常 4.3	歯肉の状態 4.9 歯列・咬合 4.7 歯垢の状態 4.2
2~4	歯・口腔のその他の疾病・異常 2.4 眼の疾病・異常 2.3 鼻・副鼻腔疾患 2.0	歯列・咬合 3.7 歯垢の状態 2.6 ぜん息 2.6 栄養状態 2.4 その他の疾病・異常 2.2	心電図異常 2.9 その他の疾病・異常 2.6 蛋白検出の者 2.5	心電図異常 3.3 その他の疾病・異常 3.3 眼の疾病・異常 3.2
1~2	蛋白検出の者 1.1	アトピー性皮膚炎 1.8 心電図異常 1.6 歯肉の状態 1.3 口腔咽喉頭疾患・異常 1.2 蛋白検出の者 1.1	アトピー性皮膚炎 1.5 ぜん息 1.2 心臓の疾病・異常 1.0	耳疾患 1.8 歯・口腔のその他の疾病・異常 1.8 アトピー性皮膚炎 1.7 ぜん息 1.5 心臓の疾病・異常 1.0
0.5~1	その他の疾病・異常 0.9 ぜん息 0.7 耳疾患 0.6	心臓の疾病・異常 0.6 言語障害 0.5	せき柱の状態 0.5	難聴 0.5 四肢の状態 0.5
0.1~0.5	その他の皮膚疾患 0.4 口腔咽喉頭疾患・異常 0.3 顎関節 0.2 歯垢の状態 0.2 アトピー性皮膚炎 0.2 心臓の疾病・異常 0.1 言語障害 0.1	難聴 0.4 せき柱の状態 0.2 腎臓疾患 0.2 顎関節 0.1 その他の皮膚疾患 0.1 四肢の状態 0.1 尿糖検出の者 0.1	難聴 0.4 栄養状態 0.4 顎関節 0.3 その他の皮膚疾患 0.2 腎臓疾患 0.2 口腔咽喉頭疾患・異常 0.1 四肢の状態 0.1 尿糖検出の者 0.1	口腔咽喉頭疾患・異常 0.4 顎関節 0.4 せき柱の状態 0.4 その他の皮膚疾患 0.3 栄養状態 0.2 腎臓疾患 0.2 結核 0.1 尿糖検出の者 0.1 言語障害 0.1
0.1未満	歯肉の状態 0.0 栄養状態 0.0	胸郭の状態 0.0 結核の精密検査の対象者 0.0	胸郭の状態 0.0 結核の精密検査の対象者 0.0 言語障害 0.0	胸郭の状態 0.0
X	裸眼視力1.0未満			

(注)1 「口腔咽喉頭疾患・異常」とは、口腔の疾患・異常、アデノイド、扁桃肥大、咽頭炎、急性又は慢性的症状の喉頭炎、扁桃炎、音声言語異常等である。

2 「歯・口腔のその他の疾病・異常」とは、口角炎、口唇炎、口内炎、唇裂、口蓋裂、舌小帯異常、唾石、癒合歯、要注意乳歯等である。

3 「心電図異常」とは、医師が心電図所見を見て、異常と判断した者、又は精密検査を要する者である。

4 「その他の皮膚疾患」とは、伝染性皮膚疾患、毛髪疾患、尋常性白斑、みずいぼ(伝染性軟属腫)等、アトピー性皮膚炎以外の皮膚疾患である。

5 「その他の疾病・異常」とは、本調査のいずれの調査項目にも該当しない疾病及び異常(例えば貧血、てんかん、ダウン症、筋ジストロフィーなど医師の診断があり長期にわたって継続するもの)である。

6 「X」は疾病・異常被患率等の標準誤差が5以上、受検者数が100人(5歳は50人)未満、回答校が1校以下又は疾病・異常被患率が100.0%のため統計数値を公表しない。

2 主な疾病・異常等の推移

疾病・異常等のうち、主なものについては次表のとおりである。

表2 主な疾病・異常等の推移

(単位:%)

区分		むし歯(う歯)	裸眼視力1.0未満の者	蛋白検出の者	耳疾患者	鼻・副鼻腔疾患患者	ぜん息	心電図異常	口腔咽喉頭疾患・異常	アトピー性皮膚炎
幼稚園	令和3年度	37.3	X	0.8	0.2	2.8	0.7	...	-	1.1
	4	35.7	25.2	0.0	1.1	1.6	0.9	...	-	0.9
	5	32.1	X	0.1	0.9	3.3	0.3	...	-	0.1
	6	20.7	X	0.1	0.7	1.1	0.1	...	-	0.6
	7	22.6	X	1.1	0.6	2.0	0.7	...	0.3	0.2
小学校	令和3年度	48.7	34.0	0.5	8.8	16.6	1.8	2.5	1.1	1.1
	4	50.3	37.1	0.7	7.3	15.4	2.3	2.7	1.2	2.0
	5	46.0	34.7	0.5	8.5	19.8	2.4	2.1	1.9	1.8
	6	40.3	32.4	0.5	6.9	18.8	1.3	2.1	1.0	1.6
	7	41.5	33.6	1.1	7.4	15.5	2.6	1.6	1.2	1.8
中学校	令和3年度	43.1	57.6	2.2	5.8	14.7	1.1	1.9	0.5	1.2
	4	44.4	57.2	2.0	5.5	14.3	1.9	2.7	0.8	1.7
	5	42.8	58.4	1.9	5.9	16.3	1.4	3.3	2.5	2.1
	6	37.9	60.5	2.1	4.1	14.7	1.8	3.1	0.4	2.1
	7	38.7	61.1	2.5	5.0	12.7	1.2	2.9	0.1	1.5
高等学校	令和3年度	54.5	68.9	4.0	1.4	14.0	2.7	3.0	0.2	2.8
	4	51.8	71.0	3.0	2.7	15.6	1.7	2.9	0.1	2.9
	5	48.7	X	4.7	1.2	9.6	1.2	4.2	0.2	2.0
	6	51.3	75.5	3.8	2.1	9.9	1.8	3.5	0.2	2.9
	7	48.7	-	6.0	1.8	9.7	1.5	3.3	0.4	1.7

(注) ① 数値は、小数点以下第2位を四捨五入している。(以下Ⅱ2の各表において同じ。)

② 「X」は疾病・異常被患率等の標準誤差が5以上、受検者数が100人(5歳は50人)未満、回答校が1校以下又は疾病・異常被患率が100.0%のため統計数値を公表しない。

③ 心電図異常については、6歳、12歳、15歳のみ調査対象としている。

(1) むし歯(う歯)

① 令和7年度のむし歯(う歯)の者の割合(処置完了者を含む。)は、幼稚園22.6%、小学校41.5%、中学校38.7%、高等学校48.7%と、高等学校では前年度より減少しているが、幼稚園、小学校、中学校では増加している。

「処置完了者」の割合については、幼稚園、小学校、高等学校では前年度より増加している。

また、「未処置歯のある者」の割合については、幼稚園、中学校では前年度より増加している。

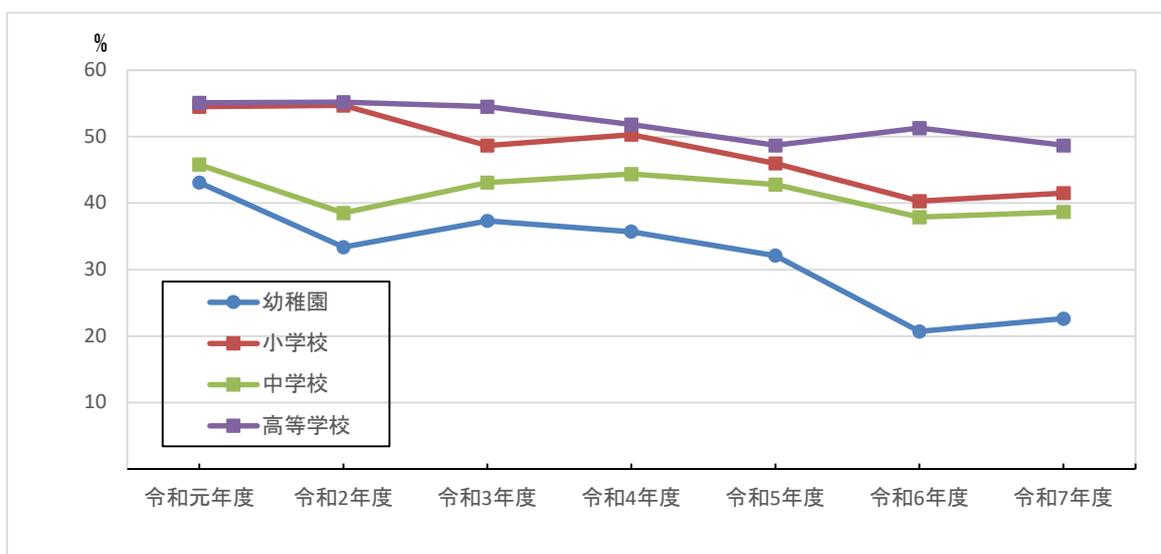
なお、むし歯(う歯)の者の割合を全国と比べると、全ての学校区分で全国平均を上回っている。

表3 むし歯(う歯)の者の割合の推移

(単位:%)

年度		令和元	令和2	令和3	令和4	令和5	令和6	令和7	前年度との差	全国(令和7)	全国との差
区分							A	B	B-A	C	B-C
幼稚園	計	43.1	33.4	37.3	35.7	32.1	20.7	22.6	1.9	19.4	3.2
	処置完了者	18.6	12.5	18.8	16.6	10.3	7.7	9.1	1.4	7.0	2.1
	未処置歯のある者	24.5	20.9	18.6	19.1	21.8	13.0	13.5	0.5	12.5	1.0
小学校	計	54.5	54.7	48.7	50.3	46.0	40.3	41.5	1.2	30.8	10.7
	処置完了者	24.3	27.5	24.6	24.8	22.2	19.1	20.5	1.4	15.1	5.4
	未処置歯のある者	30.2	27.2	24.2	25.5	23.7	21.1	21.0	△ 0.1	15.8	5.2
中学校	計	45.8	38.5	43.1	44.4	42.8	37.9	38.7	0.8	25.2	13.5
	処置完了者	24.4	19.2	27.1	25.2	24.8	21.9	20.7	△ 1.2	15.2	5.5
	未処置歯のある者	21.4	19.3	16.1	19.1	18.0	16.0	18.0	2.0	10.1	7.9
高等学校	計	55.1	55.2	54.5	51.8	48.7	51.3	48.7	△ 2.6	32.8	15.9
	処置完了者	28.7	30.0	31.0	30.9	28.7	30.9	31.0	0.1	20.7	10.3
	未処置歯のある者	26.4	25.2	23.5	20.8	19.9	20.4	17.8	△ 2.6	12.1	5.7

図1 年度別・むし歯の者の推移
(処置完了者+未処置者)



② 12歳の永久歯の1人当たり平均むし歯(う歯)等数(喪失歯及び処置歯数を含む)は、次表のとおりである。

表4 12歳の永久歯の1人当たり平均むし歯(う歯)等数 (単位:本)

区分		年度	令和元	令和2	令和3	令和4	令和5	令和6	令和7	前年度との差	全国(令和7)	全国との差
							A	B	B-A	C	B-C	
計	喪失歯数		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	(むし歯)	処置歯数	0.7	0.5	0.6	0.7	0.9	0.6	0.6	0.0	0.3	0.3
		未処置歯数	0.4	0.3	0.3	0.4	0.5	0.3	0.4	0.1	0.2	0.2
		計	1.0	0.8	0.9	1.1	1.4	0.9	1.0	0.1	0.5	0.5
	合計		1.1	0.8	1.0	1.1	1.4	0.9	1.0	0.1	0.5	0.5
男子	喪失歯数		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	(むし歯)	処置歯数	0.6	0.5	0.6	0.6	1.0	0.6	0.6	0.0	0.3	0.3
		未処置歯数	0.4	0.3	0.3	0.3	0.4	0.3	0.4	0.1	0.2	0.2
		計	1.0	0.8	0.9	0.9	1.4	0.9	1.0	0.1	0.4	0.6
	合計		1.0	0.8	0.9	0.9	1.4	0.9	1.0	0.1	0.4	0.6
女子	喪失歯数		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	(むし歯)	処置歯数	0.7	0.6	0.7	0.8	0.7	0.6	0.5	△ 0.1	0.3	0.2
		未処置歯数	0.4	0.3	0.3	0.4	0.6	0.3	0.4	0.1	0.2	0.2
		計	1.1	0.8	1.0	1.2	1.3	0.9	0.9	0.0	0.5	0.4
	合計		1.1	0.9	1.0	1.2	1.4	1.0	0.9	△ 0.1	0.5	0.4

(2) 裸眼視力

「裸眼視力1.0未満」の者の割合及び内訳は次表のとおりである。

「裸眼視力1.0未満」の者の割合を前年度と比べると、6歳～8歳、11歳、13歳は増加している。

表5 裸眼視力1.0未満の者の割合

(単位:%)

区分	年齢	令和6年度 A				令和7年度 B				前年度との差B-A				全国(令和7) C				全国との差B-C				
		計	1.0未満 0.7以上	0.7未満 0.3以上	0.3未満	計	1.0未満 0.7以上	0.7未満 0.3以上	0.3未満	計	1.0未満 0.7以上	0.7未満 0.3以上	0.3未満	計	1.0未満 0.7以上	0.7未満 0.3以上	0.3未満	計	1.0未満 0.7以上	0.7未満 0.3以上	0.3未満	
計	幼稚園	5	X	X	X	X	X	X	X	-	-	-	-	23.9	17.4	5.8	0.7	-	-	-	-	
	小学校	計	32.4	11.1	11.4	10.0	33.6	12.9	11.3	9.5	1.2	1.8	△ 0.1	△ 0.5	36.1	12.2	13.7	10.1	△ 2.5	0.7	△ 2.4	△ 0.6
		6	18.6	12.7	5.1	0.8	23.4	15.7	6.4	1.4	4.8	3.0	1.3	0.6	24.1	14.8	7.7	1.6	△ 0.7	0.9	△ 1.3	△ 0.2
		7	23.6	13.2	7.4	3.0	24.0	13.8	6.9	3.2	0.4	0.6	△ 0.5	0.2	27.4	12.9	10.4	4.1	△ 3.4	0.9	△ 3.5	△ 0.9
		8	27.6	9.3	11.2	7.2	29.4	12.2	11.3	5.9	1.8	2.9	0.1	△ 1.3	32.2	12.2	13.0	7.0	△ 2.8	0.0	△ 1.7	△ 1.1
		9	35.8	9.6	12.9	13.2	34.9	13.9	11.4	9.6	△ 0.9	4.3	△ 1.5	△ 3.6	38.4	12.0	15.2	11.3	△ 3.5	1.9	△ 3.8	△ 1.7
		10	41.7	11.7	14.4	15.6	41.0	11.5	14.2	15.3	△ 0.7	△ 0.2	△ 0.2	△ 0.3	44.1	11.1	17.1	16.0	△ 3.1	0.4	△ 2.9	△ 0.7
		11	44.8	10.1	16.2	18.5	46.8	10.5	16.7	19.6	2.0	0.4	0.5	1.1	48.0	10.8	17.9	19.3	△ 1.2	△ 0.3	△ 1.2	0.3
	中学校	計	60.5	12.0	15.5	33.1	61.1	10.4	16.2	34.5	0.6	△ 1.6	0.7	1.4	59.4	13.3	19.3	26.8	1.7	△ 2.9	△ 3.1	7.7
	12	62.6	X	X	X	58.4	10.8	16.8	30.7	△ 4.2	-	-	-	53.5	13.1	18.1	22.4	4.9	△ 2.3	△ 1.3	8.3	
	13	54.5	10.2	17.5	26.8	61.2	10.1	17.1	34.0	6.7	△ 0.1	△ 0.4	7.2	59.4	12.4	20.0	27.1	1.8	△ 2.3	△ 2.9	6.9	
14	64.4	12.4	14.4	37.6	63.8	10.4	14.7	38.7	△ 0.6	△ 2.0	0.3	1.1	64.9	14.4	19.8	30.7	△ 1.1	△ 4.0	△ 5.1	8.0		
高等学校	計	75.5	9.5	15.6	50.3	-	-	-	-	-	-	-	-	71.5	11.4	17.8	42.4	-	-	-	-	
15	76.7	10.8	16.6	49.3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	71.5	11.1	18.3	42.1	-	-	-	-	
16	76.5	5.2	21.3	50.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	71.2	12.0	18.0	41.3	-	-	-	-	
17	73.2	12.5	8.8	51.8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	71.9	11.1	17.1	43.7	-	-	-	-	

(注) 「X」は疾病・異常被患率等の標準誤差が5以上、受検者数が100人(5歳は50人)未満、回答校が1校以下又は疾病異常被患率が100.0%のため統計数値を公表しない。

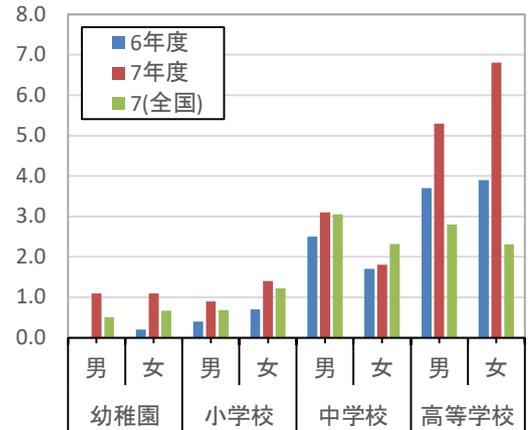
(3) 蛋白検出

蛋白検出の者の割合を前年度と比べると、男子は小学校、中学校、高等学校で、女子は全ての学校区分で増加している。

(単位:%)

年度		3	4	5	6	7	7(全国)
計	幼稚園	0.8	0.0	0.1	0.1	1.1	0.6
	小学校	0.5	0.7	0.5	0.5	1.1	1.0
	中学校	2.2	2.0	1.9	2.1	2.5	2.7
	高等学校	4.0	3.0	4.7	3.8	6.0	2.6
男子	幼稚園	0.4	-	0.1	-	1.1	0.5
	小学校	0.3	0.4	0.3	0.4	0.9	0.7
	中学校	2.7	2.2	2.1	2.5	3.1	3.1
	高等学校	4.3	3.6	4.8	3.7	5.3	2.8
女子	幼稚園	1.1	0.1	0.2	0.2	1.1	0.7
	小学校	0.7	1.0	0.7	0.7	1.4	1.2
	中学校	1.7	1.9	1.6	1.7	1.8	2.3
	高等学校	3.6	2.4	4.5	3.9	6.8	2.3

図2 蛋白の検出割合比較 (単位:%)



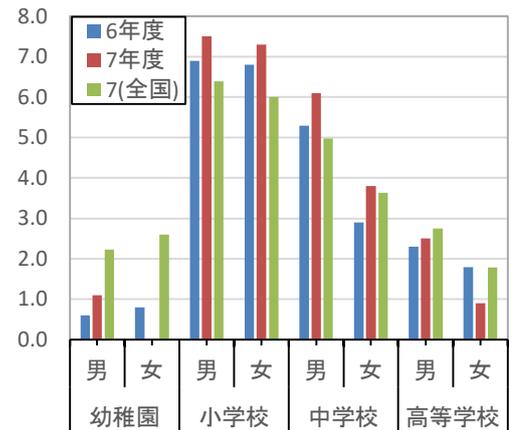
(4) 耳疾患

耳疾患の者の割合を前年度と比べると、男子は全ての学校区分で、女子は小学校、中学校で増加している。

(単位:%)

年度		3	4	5	6	7	7(全国)
計	幼稚園	0.2	1.1	0.9	0.7	0.6	2.4
	小学校	8.8	7.3	8.5	6.9	7.4	6.2
	中学校	5.8	5.5	5.9	4.1	5.0	4.3
	高等学校	1.4	2.7	1.2	2.1	1.8	2.3
男子	幼稚園	0.4	0.9	1.7	0.6	1.1	2.2
	小学校	9.0	7.3	9.3	6.9	7.5	6.4
	中学校	6.8	6.5	6.6	5.3	6.1	5.0
	高等学校	1.0	3.9	1.1	2.3	2.5	2.8
女子	幼稚園	-	1.3	-	0.8	-	2.6
	小学校	8.5	7.3	7.6	6.8	7.3	6.0
	中学校	4.8	4.5	5.2	2.9	3.8	3.6
	高等学校	1.8	1.3	1.4	1.8	0.9	1.8

図3 耳疾患の割合比較 (単位:%)



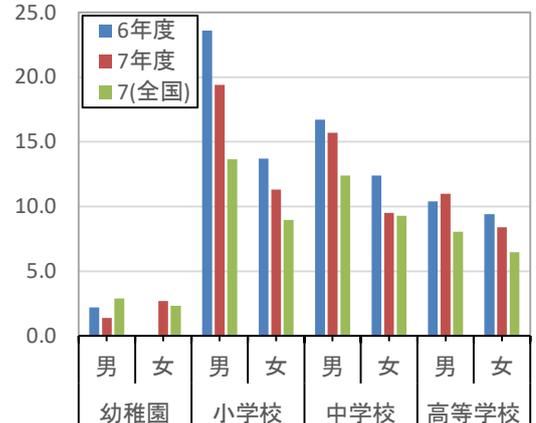
(5) 鼻・副鼻腔疾患

鼻・副鼻腔疾患の者の割合を前年度と比べると、高等学校の男子は増加している。

(単位:%)

年度		3	4	5	6	7	7(全国)
計	幼稚園	2.8	1.6	3.3	1.1	2.0	2.6
	小学校	16.6	15.4	19.8	18.8	15.5	11.4
	中学校	14.7	14.3	16.3	14.7	12.7	10.9
	高等学校	14.0	15.6	9.6	9.9	9.7	7.3
男子	幼稚園	3.4	2.1	3.6	2.2	1.4	2.9
	小学校	21.0	20.3	25.2	23.6	19.4	13.7
	中学校	17.6	17.6	19.5	16.7	15.7	12.4
	高等学校	15.1	17.6	9.6	10.4	11.0	8.1
女子	幼稚園	2.2	0.9	2.9	-	2.7	2.3
	小学校	12.0	10.3	14.0	13.7	11.3	9.0
	中学校	11.5	10.8	12.9	12.4	9.5	9.3
	高等学校	12.8	13.4	9.7	9.4	8.4	6.5

図4 鼻・副鼻腔疾患の割合比較 (単位:%)



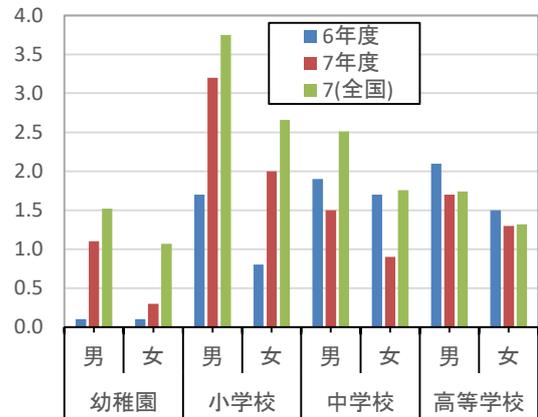
(6) ぜん息

ぜん息の者の割合を前年度と比べると、男子・女子ともに幼稚園、小学校で増加している。

(単位:%)

年度		3	4	5	6	7	7(全国)
計	幼稚園	0.7	0.9	0.3	0.1	0.7	1.3
	小学校	1.8	2.3	2.4	1.3	2.6	3.2
	中学校	1.1	1.9	1.4	1.8	1.2	2.1
	高等学校	2.7	1.7	1.2	1.8	1.5	1.5
男子	幼稚園	-	1.6	0.3	0.1	1.1	1.5
	小学校	2.0	2.8	3.0	1.7	3.2	3.8
	中学校	1.4	2.3	1.6	1.9	1.5	2.5
	高等学校	3.4	1.9	1.5	2.1	1.7	1.7
女子	幼稚園	1.5	0.2	0.3	0.1	0.3	1.1
	小学校	1.5	1.9	1.7	0.8	2.0	2.7
	中学校	0.8	1.5	1.3	1.7	0.9	1.8
	高等学校	2.0	1.6	1.0	1.5	1.3	1.3

図5 ぜん息の割合比較 (単位:%)



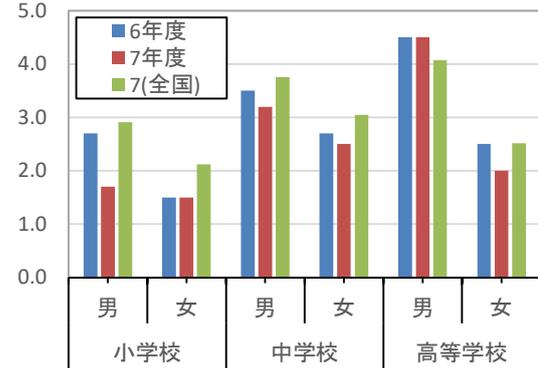
(7) 心電図異常

心電図異常の者の割合を前年度と比べると、男子は小学校、中学校で、女子は中学校、高等学校で減少している。

(単位:%)

年度		3	4	5	6	7	7(全国)
計	小学校	2.5	2.7	2.1	2.1	1.6	2.5
	中学校	1.9	2.7	3.3	3.1	2.9	3.4
	高等学校	3.0	2.9	4.2	3.5	3.3	3.3
男子	小学校	2.6	3.6	2.2	2.7	1.7	2.9
	中学校	1.9	2.6	4.2	3.5	3.2	3.8
	高等学校	3.9	3.8	5.1	4.5	4.5	4.1
女子	小学校	2.4	1.8	2.0	1.5	1.5	2.1
	中学校	1.9	2.9	2.4	2.7	2.5	3.1
	高等学校	2.1	1.9	3.3	2.5	2.0	2.5

図6 心電図異常の割合比較 (単位:%)



(注)心電図異常については、6歳、12歳、15歳のみ調査対象としている。

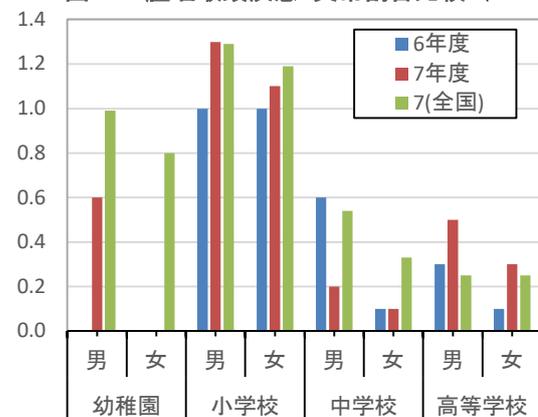
(8) 口腔咽喉頭疾患・異常

口腔咽喉頭疾患・異常の者の割合を前年度と比べると、男子・女子ともに小学校、高等学校で増加している。

(単位:%)

年度		3	4	5	6	7	7(全国)
計	幼稚園	-	-	-	-	0.3	0.9
	小学校	1.1	1.2	1.9	1.0	1.2	1.2
	中学校	0.5	0.8	2.5	0.4	0.1	0.4
	高等学校	0.2	0.1	0.2	0.2	0.4	0.3
男子	幼稚園	-	-	-	-	0.6	1.0
	小学校	1.0	1.0	1.9	1.0	1.3	1.3
	中学校	0.5	0.7	2.5	0.6	0.2	0.5
	高等学校	0.2	0.1	0.2	0.3	0.5	0.3
女子	幼稚園	-	-	-	-	-	0.8
	小学校	1.1	1.3	1.8	1.0	1.1	1.2
	中学校	0.5	0.9	2.5	0.1	0.1	0.3
	高等学校	0.3	-	0.1	0.1	0.3	0.3

図7 口腔咽喉頭疾患・異常割合比較 (単位:%)



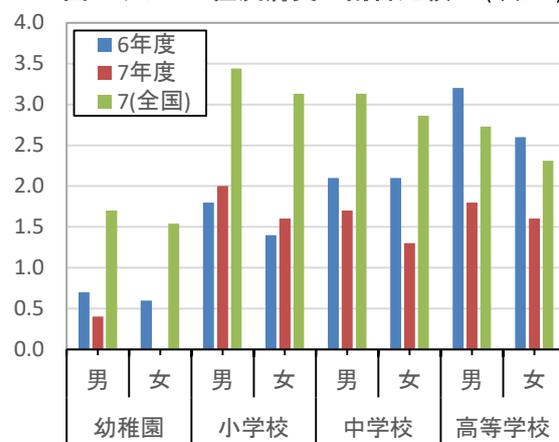
(9) アトピー性皮膚炎

アトピー性皮膚炎の者の割合を前年度と比べると、男子・女子ともに小学校で増加している。

(単位:%)

年度		3	4	5	6	7	7(全国)
計	幼稚園	1.1	0.9	0.1	0.6	0.2	1.6
	小学校	1.1	2.0	1.8	1.6	1.8	3.3
	中学校	1.2	1.7	2.1	2.1	1.5	3.0
	高等学校	2.8	2.9	2.0	2.9	1.7	2.5
男子	幼稚園	0.5	0.5	0.3	0.7	0.4	1.7
	小学校	1.1	2.5	2.1	1.8	2.0	3.4
	中学校	1.3	1.7	2.7	2.1	1.7	3.1
	高等学校	3.0	3.0	2.3	3.2	1.8	2.7
女子	幼稚園	1.8	1.3	-	0.6	-	1.5
	小学校	1.1	1.4	1.5	1.4	1.6	3.1
	中学校	1.0	1.7	1.5	2.1	1.3	2.9
	高等学校	2.6	2.8	1.8	2.6	1.6	2.3

図8 アトピー性皮膚炎の割合比較 (単位:%)



Ⅲ 肥満傾向児及び痩身傾向児の出現率

1 肥満傾向児の出現率

前年度と比べると、男子では9つの年齢階層で増加し、4つの年齢階層で減少している。

女子では3つの年齢階層で増加し、9つの年齢階層で減少している。

全国と比べると、男子では9つの年齢階層で上回っており、4つの年齢階層で下回っている。

女子では7つの年齢階層で上回っており、6つの年齢階層で下回っている。

表1 肥満傾向児の割合

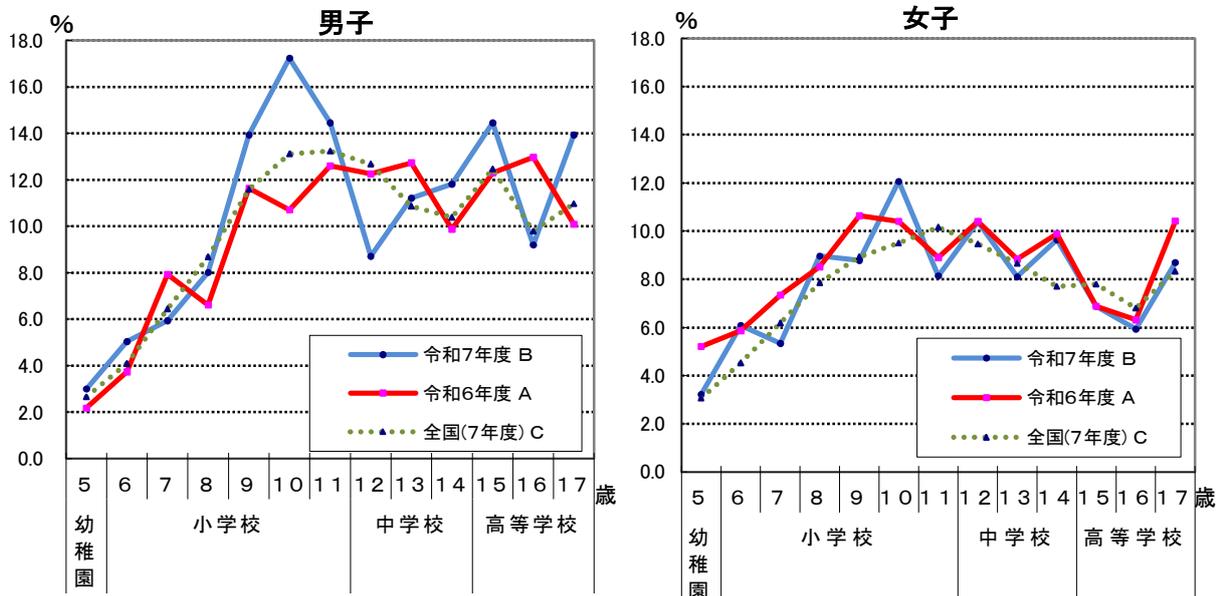
(単位:%)

区分		年齢	令和6年度 A	令和7年度 B	前年度差 B-A	全国(7年度) C	全国との差 B-C
男 子	幼稚園	5	2.18	3.00	0.82	2.66	0.34
		6	3.74	5.04	1.30	4.10	0.94
	小学校	7	7.94	5.94	△ 2.00	6.44	△ 0.50
		8	6.62	8.02	1.40	8.68	△ 0.66
		9	11.64	13.94	2.30	11.59	2.35
		10	10.71	17.24	6.53	13.12	4.12
		11	12.60	14.46	1.86	13.24	1.22
	中学校	12	12.25	8.71	△ 3.54	12.68	△ 3.97
		13	12.74	11.22	△ 1.52	10.87	0.35
		14	9.88	11.82	1.94	10.39	1.43
	高等学校	15	12.31	14.46	2.15	12.47	1.99
		16	12.98	9.20	△ 3.78	9.79	△ 0.59
		17	10.10	13.94	3.84	10.98	2.96
	女 子	幼稚園	5	5.21	3.22	△ 1.99	3.06
6			5.87	6.08	0.21	4.53	1.55
小学校		7	7.34	5.34	△ 2.00	6.19	△ 0.85
		8	8.52	8.96	0.44	7.86	1.10
		9	10.64	8.79	△ 1.85	8.93	△ 0.14
		10	10.40	12.07	1.67	9.51	2.56
		11	8.90	8.14	△ 0.76	10.16	△ 2.02
中学校		12	10.40	10.39	△ 0.01	9.46	0.93
		13	8.83	8.10	△ 0.73	8.66	△ 0.56
		14	9.89	9.65	△ 0.24	7.71	1.94
高等学校		15	6.88	6.88	-	7.79	△ 0.91
		16	6.31	5.93	△ 0.38	6.80	△ 0.87
		17	10.42	8.70	△ 1.72	8.34	0.36

(注)「肥満傾向児」とは、性別・年齢別・身長別標準体重から肥満度を求め、肥満度が20%以上の者である。

$$\text{肥満度} = (\text{実測体重} - \text{身長別標準体重}) / \text{身長別標準体重} \times 100(\%)$$

図1 年齢別肥満傾向児の出現率の推移



2 痩身傾向児の出現率

前年度と比べると、男子では4つの年齢階層で増加し、8つの年齢階層で減少している。

女子では6つの年齢階層で増加し、7つの年齢階層で減少している。

全国と比べると、男子では4つの年齢階層で上回っており、9つの年齢階層で下回っている。

女子では6つの年齢階層で上回っており、7つの年齢階層で下回っている。

表2 痩身傾向児の割合

(単位:%)

区分	年齢	令和6年度 A	令和7年度 B	前年度差 B-A	全国(7年度) C	全国との差 B-C	
男 子	幼稚園	5	0.21	0.57	0.36	0.22	0.35
	小学校	6	-	0.37	-	0.40	△ 0.03
		7	0.72	0.35	△ 0.37	0.39	△ 0.04
		8	1.21	1.52	0.31	1.12	0.40
		9	1.29	1.82	0.53	1.59	0.23
		10	3.15	2.63	△ 0.52	2.88	△ 0.25
		11	3.56	2.15	△ 1.41	3.70	△ 1.55
	中学校	12	4.57	2.82	△ 1.75	3.44	△ 0.62
		13	2.28	2.24	△ 0.04	2.76	△ 0.52
		14	3.73	2.84	△ 0.89	3.07	△ 0.23
高等学校	15	4.09	4.43	0.34	3.66	0.77	
	16	5.48	2.44	△ 3.04	3.21	△ 0.77	
	17	3.25	2.61	△ 0.64	3.41	△ 0.80	
女 子	幼稚園	5	0.12	0.13	0.01	0.20	△ 0.07
	小学校	6	1.71	1.60	△ 0.11	0.70	0.90
		7	0.15	1.75	1.60	0.57	1.18
		8	0.75	2.45	1.70	1.14	1.31
		9	2.71	1.04	△ 1.67	1.77	△ 0.73
		10	3.28	0.81	△ 2.47	2.78	△ 1.97
	中学校	11	1.95	3.26	1.31	3.09	0.17
		12	3.19	2.87	△ 0.32	4.46	△ 1.59
		13	3.46	2.30	△ 1.16	3.76	△ 1.46
	高等学校	14	3.18	4.67	1.49	3.46	1.21
		15	3.91	2.57	△ 1.34	3.58	△ 1.01
		16	2.60	1.79	△ 0.81	3.13	△ 1.34
		17	1.13	4.40	3.27	2.38	2.02

(注)「痩身傾向児」とは、性別・年齢別・身長別標準体重から肥満度を求め、肥満度が-20%以下の者である。

$$\text{肥満度} = (\text{実測体重} - \text{身長別標準体重}) / \text{身長別標準体重} \times 100(\%)$$

図2 年齢別痩身傾向児の出現率の推移

